

# 令和4年度 宮城県・福島県渋滞対策連絡協議会 浜通り地区WG資料

---

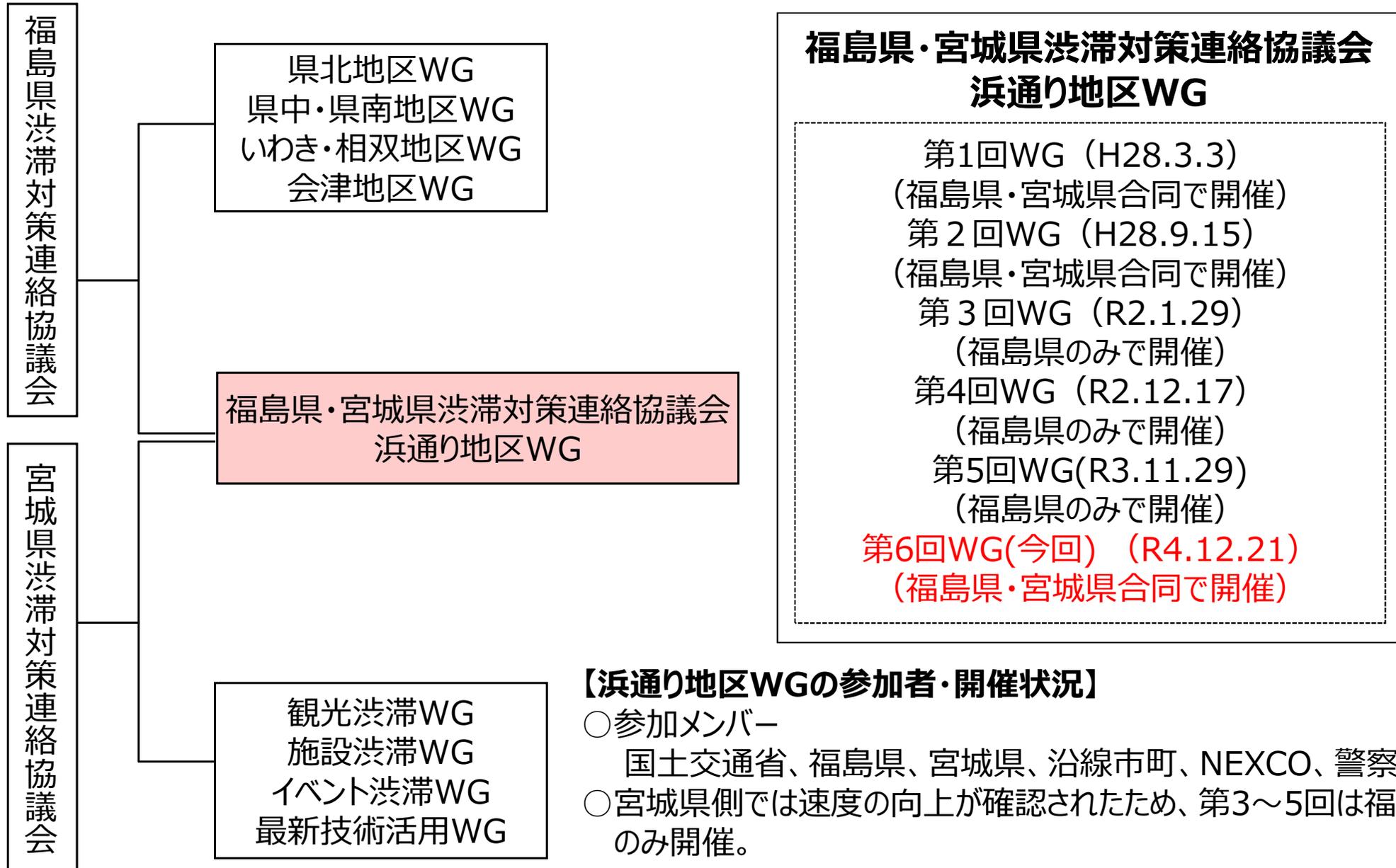
令和4年12月21日

# < 目次 >

1.	これまでの経緯 .....	1
2.	復興関連事業による交通環境の変化.....	3
3.	浜通り地区の開発状況.....	4
4.	最新の交通状況 .....	5
5.	浜通り地区における交通状況のまとめ .....	8
6.	今後の体制について .....	9

# 1. これまでの経緯

- ・東日本大震災以降、復旧・復興事業、除染作業等により国道6号等の大型車が増加。
- ・大型車の増加に伴う混雑状況のモニタリングや混雑緩和に向けた対策等を行うことを目的として、H28年に浜通り地区WGを設立。



# 1. これまでの経緯

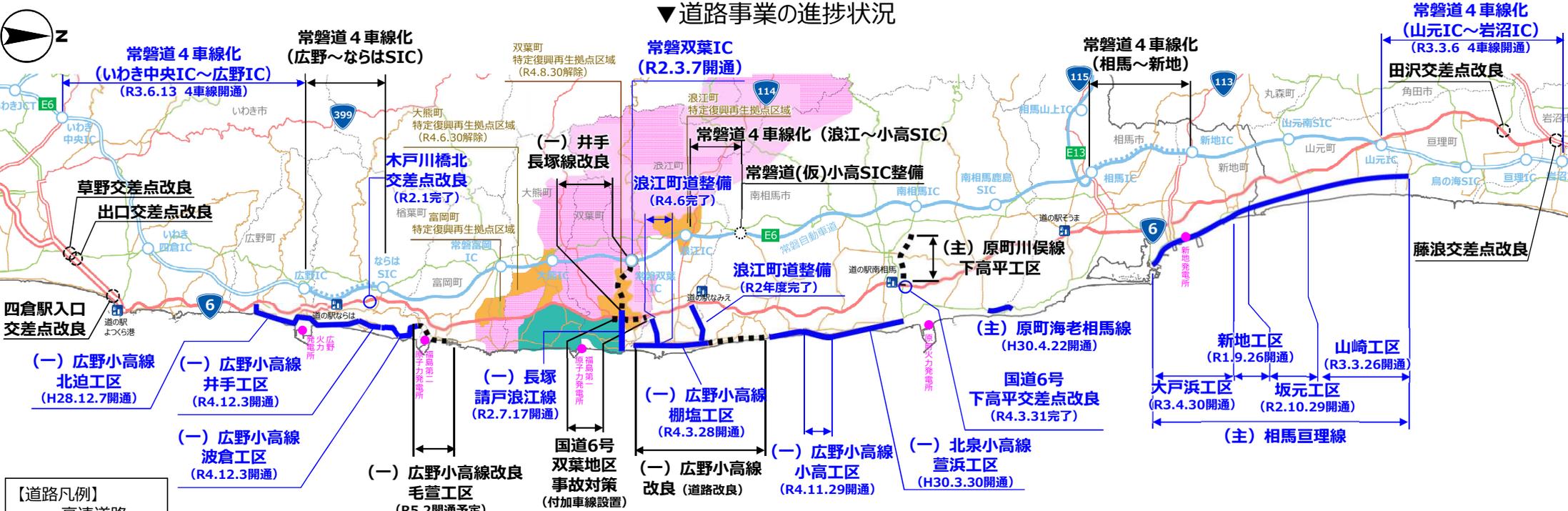
- ・浜通り地区WGでは、最新の交通状況（交通量、速度）及び復旧・復興事業の進捗状況を確認。
- ・特に国道6号において速度低下が顕在化しており、重点的に交通状況のモニタリング等を実施。

回数（開催日）	主な協議内容
第1回 (H28.3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道6号の朝夕の大型車集中により、いわき市、広野町、楢葉町、南相馬市、山元町等で速度低下を確認</li> <li>・想定される対策メニュー案として、時差出勤や通勤ルートの変更、電車通勤への転換等を提案</li> </ul>
第2回 (H28.9.15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般道の対策として、新たな信号制御方式の導入結果の確認や国道6号高見町交差点の右折レーン延伸案を検討</li> </ul>
第3回 (R2.1.29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道6号と常磐自動車道の大型交通量が増加傾向であることを確認</li> <li>・自治体や道路利用者の渋滞認識として、夕方上りの広野町内、夕方下りの双葉町内や浪江町内で連続した区間の速度低下を確認</li> </ul>
第4回 (R2.12.17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常磐双葉IC及び(一)広野小高線（天神工区、井出・波倉工区の一部）の開通により、国道6号からの交通転換を確認</li> <li>・国道6号において、以下5区間で速度低下を確認。TDM施策を実施（時差出勤や乗合出勤等）            朝方：上りの南相馬市（聖下～高見町）、下りの富岡町（双葉警察署前～太田）            夕方：上りのいわき市～広野町間（連郷～広野町役場前）、下りの浪江町～双葉町間（知命寺～陣場下）、下りの南相馬市（高見町～聖下）</li> </ul>
第5回 (R3.11.29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(主)相馬亘理線及び(一)広野小高線（井出工区の一部）の開通により、国道6号からの交通の転換を確認</li> <li>・国道6号において、以下2区間で速度低下が大きく、TDM施策を実施（通勤ルート変更のお願い）            夕方：上りの広野町（連郷～広野町役場前）、下りの南相馬市（聖下～高見町）</li> </ul>

## 2. 復興関連事業による交通環境の変化

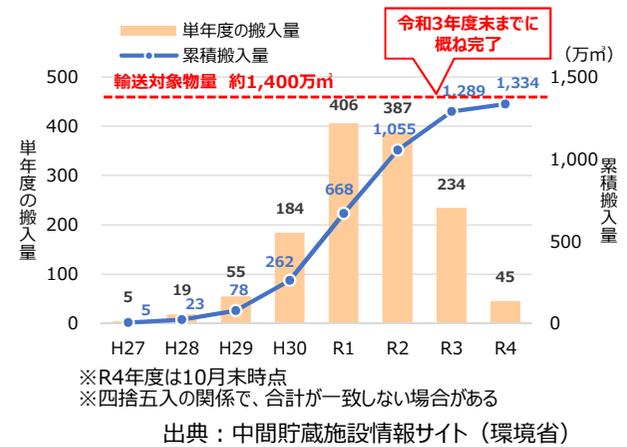
- 中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送は、帰還困難区域を除き令和3年度末までに概ね完了。福島第一原発の廃炉に携わる作業員数は、ピーク時の約6,900人/日から約3,600人/日に減少。
- 但し、福島第一原発及び第二原発の廃炉作業や中間貯蔵施設内の作業は、今後も継続見込み。
- 浜通り地区では東日本大震災以降に常磐自動車道4車線化や国道6号、県道等の整備が進んでおり、今後も交通環境が変化。

▼道路事業の進捗状況



- 【道路凡例】
- 高速道路
  - 国道
  - 主要地方道
  - 一般県道
- 【車線数】
- 4車線
  - 2車線
- 【対策事業】
- 事業中区間
  - 開通済区間
- 【その他】
- 発電所
  - 道の駅
  - 帰還困難区域 (R4.8.30時点)
  - 特定復興再生拠点区域 等
  - 中間貯蔵施設

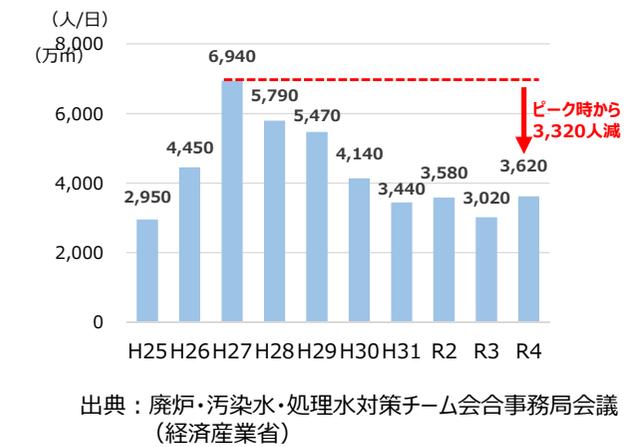
▼中間貯蔵施設への搬入量の推移



▼輸送車両の1日当たりの往復回数



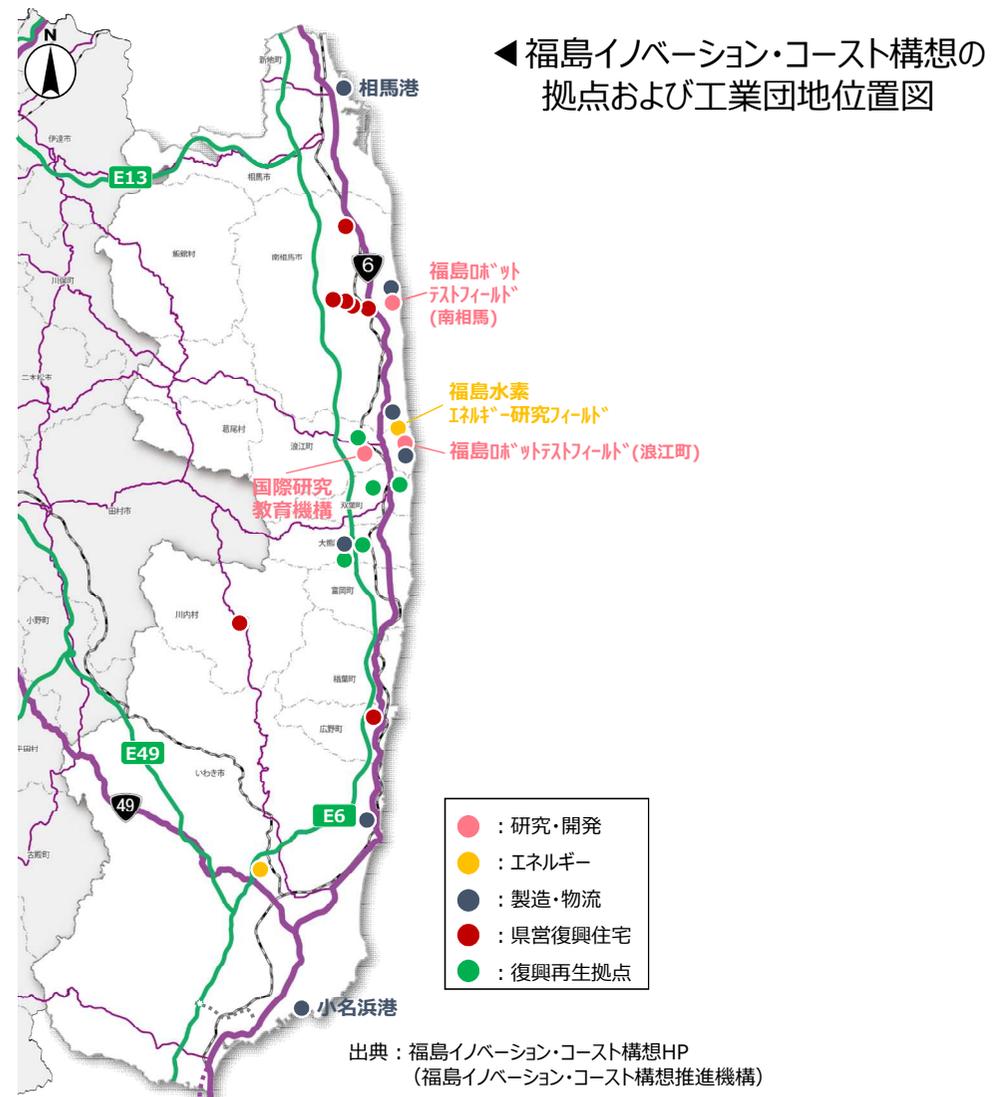
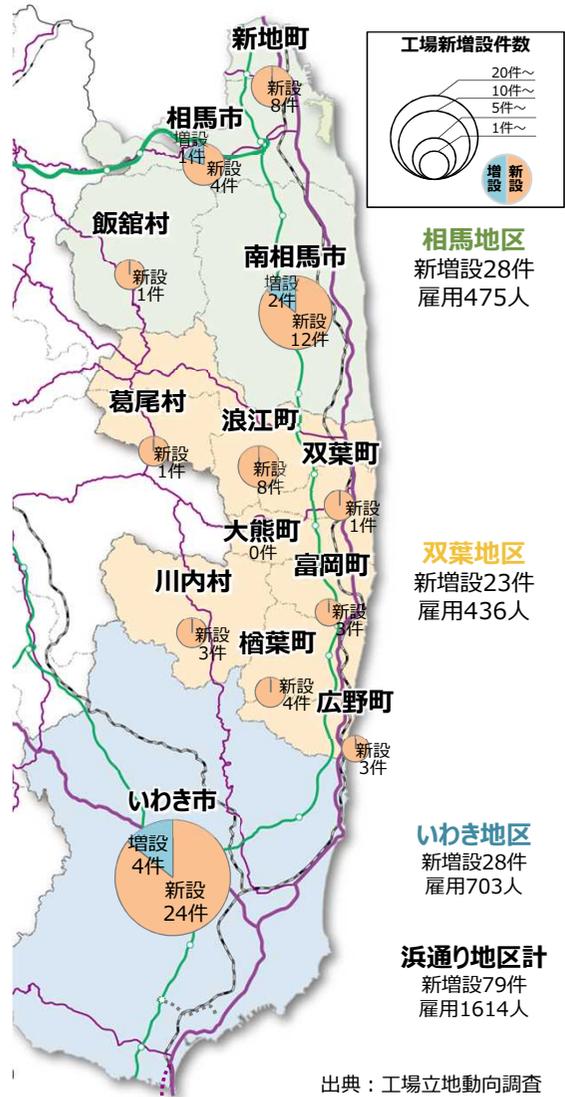
▼福島第一原子力発電所作業員数の推移



### 3. 浜通り地区の開発状況

- ・東日本大震災以降、浜通り地区では79件の工場が新增設。
- ・富岡町では産業団地が完売。新たな産業団地等の整備も進展しており、小高復興産業団地等の新たな産業団地が計画。
- ・福島イノベーション・コースト構想による研究施設立地が進展したほか、浪江町に国際研究教育機構の立地が決定。
- ・大熊町、双葉町、浪江町では、新たなまちづくりが進捗。
- ・各種開発計画の進捗に伴い、今後も道路交通のモニタリングが必要。

▶ 工場新增設状況および  
新規雇用者数 (H23.4～R1)

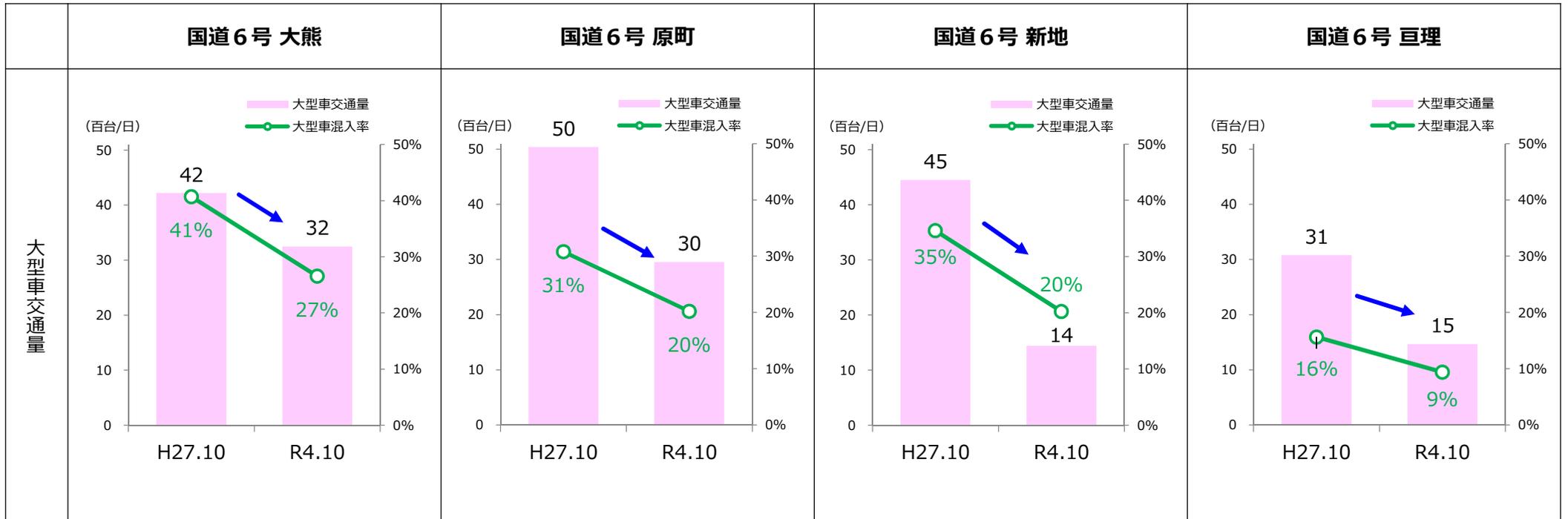


# 4. 最新の交通状況（大型車交通量の変化）

- 国道6号新地では、国道6号に並行する(主)相馬巨理線への交通転換を確認。
- 全ての交通量観測位置で復旧・復興車両（大型車交通量）の減少を確認。



※分担率：国道6号と県道相馬巨理線におけるETC2.0データ数の割合

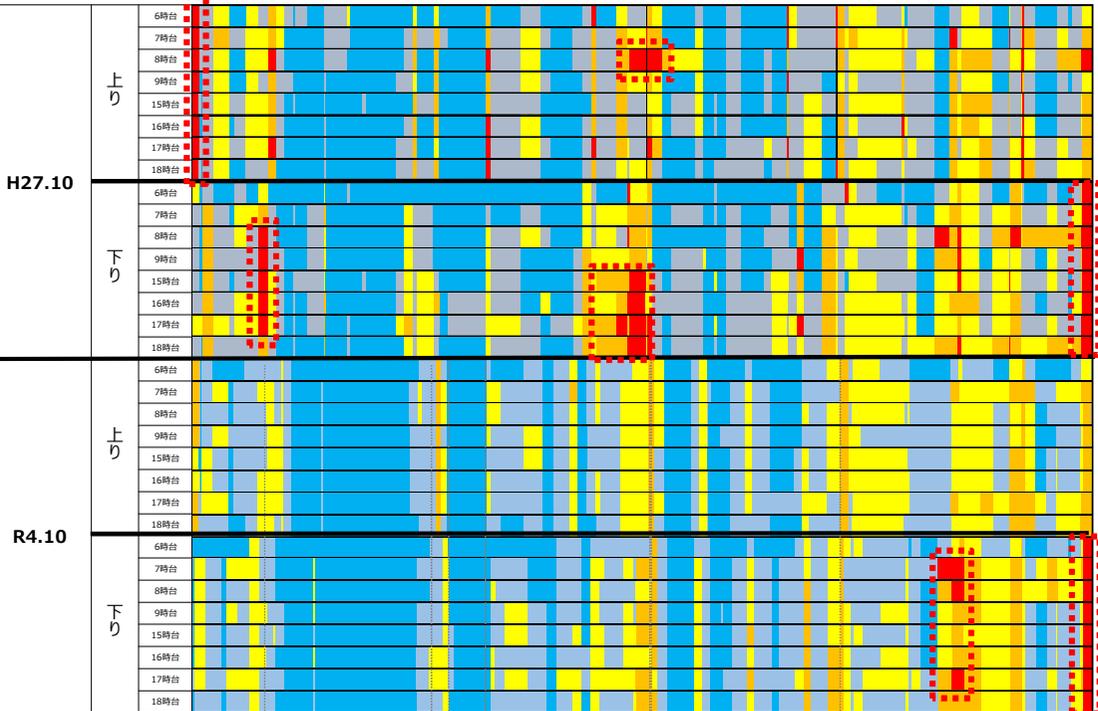
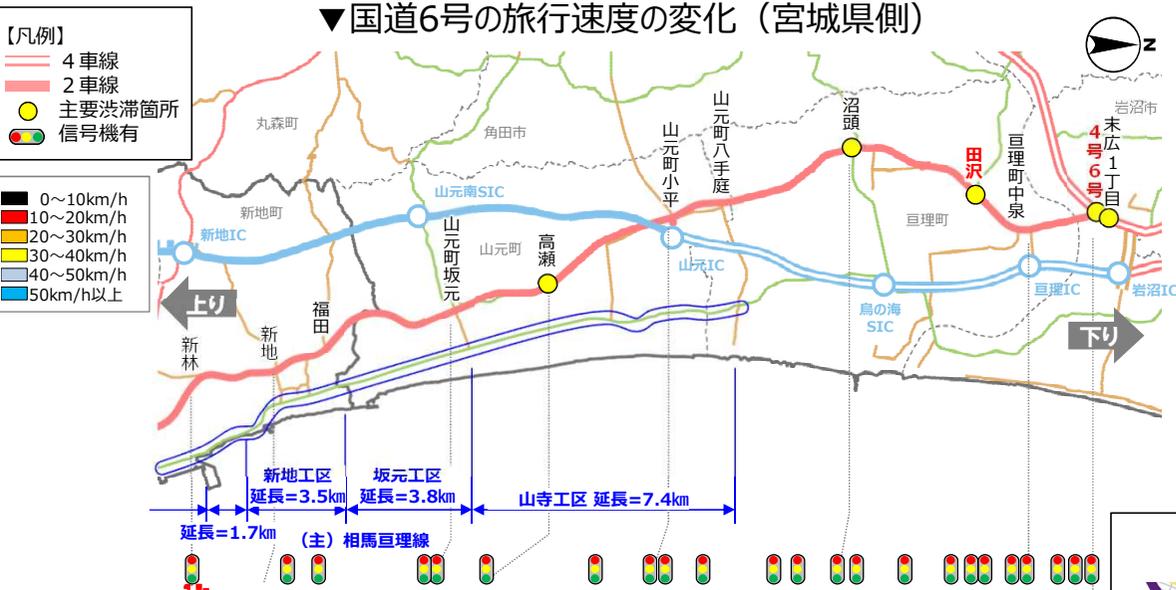


出典：トラフィックカウンター-10月平日の日平均交通量



# 5. 最新の交通状況（旅行速度の変化（宮城県側））

- ・(主)相馬巨理線が開通したことで、国道6号の交通が(主)相馬巨理線に転換され、交通混雑が緩和。
- ・交通課題箇所である主要渋滞箇所等の速度低下は継続しており、引き続き交通状況のモニタリングが必要。



出典：民間プローブデータ（H27.10平日平均）、ETC2.0データ（R4.10平日平均）

▼国道6号と(主)相馬巨理線の分担率



**(主) 相馬巨理線の開通により、交通が大きく転換**

出典：ETC2.0データ（R1.10、R3.9）

## 5. 浜通り地区における交通状況のまとめ

- ・東日本大震災から11年経過し復旧・復興関連事業等のピークが過ぎ、周辺の道路整備等も進捗したことから、大型車に起因する国道6号の交通課題が改善。
- ・交通課題箇所である主要渋滞箇所等の速度低下は継続。

項目	H28浜通り地区WG 発足当初		R4現在
交通量	・東日本大震災以降、復旧・復興関連事業等に伴う大型車交通量が <b>増加</b>		・復旧・復興関連事業の進捗に伴い、大型車交通量が <b>減少</b>
旅行速度	福島県内	・いわき市～広野町間（連郷～広野町役場前周辺）、南相馬市（聖下～高見町）、相馬市（一里壇 <sup>いちりだん</sup> ～潜石 <sup>くぐりいし</sup> ）、新地町（新林～新地）等で <b>速度低下を確認</b>	・ <b>全体的に改善しているが</b> 、主要渋滞箇所等で <b>速度低下が継続</b> 。
	宮城県内	・山元町（山元IC周辺）、亘理町（亘理IC前～田沢）、岩沼市（4号6号交差点）等で <b>速度低下を確認</b>	・ <b>全体的に改善しているが</b> 、主要渋滞箇所等で <b>速度低下が継続</b> 。

# 6. 今後の体制について

・主要渋滞箇所等の対策検討や復興まちづくり等による交通への影響把握は、福島県・宮城県渋滞対策連絡協議会での検討内容と共通しており、それらを効率的に検討する事が望ましいため、体制の見直しを行う。

## 宮城県渋滞対策連絡協議会

## 福島県渋滞対策連絡協議会

### 浜通り地区WG

#### 【検討内容等】

- 慢性的な渋滞を解消し円滑な交通流を確保するための施策の分析・検討
- 渋滞箇所の総合的な整備計画の策定
- 検討対象エリアは宮城県内全域

#### 【現状】

- 主要渋滞箇所や道路利用者等要望箇所での対策検討。

#### 【検討内容等】

- 復旧・復興事業の関係車両による渋滞箇所の分析・検討、混雑緩和に向けた対策、浜通り地区の交通状況分析
- 検討対象は福島県及び宮城県の国道6号・常磐自動車道・県道等

#### 【現状】

- 復興・復旧関連事業等の進捗や道路整備により、大型車に起因する国道6号の速度は改善。
- 主要渋滞箇所等の対策検討や復興まちづくり等による交通への影響把握

#### 【検討内容等】

- 慢性的な渋滞を解消し円滑な交通流を確保するための施策の分析・検討
- 渋滞箇所の総合的な整備計画の策定
- 検討対象エリアは福島県内全域

#### 【現状】

- 主要渋滞箇所や道路利用者等要望箇所での対策検討。

#### 【福島県及び宮城県渋滞対策連絡協議会】

- 道路利用者会議要望箇所の検討

#### 【浜通り地区WG】

(渋滞対策連絡協議会と共通する検討事項)  
■ 主要渋滞箇所の対策検討

- 復旧・復興関係車両等による国道6号の交通混雑 → 改善

交通課題が残る主要渋滞箇所等は「宮城県渋滞対策連絡協議会」及び「福島県渋滞対策連絡協議会(いわき・相双地区WG)」で引き続き検討